

第2次環境基本計画 改訂版 平成26年度指標の実績一覧

I 代表指標の評価一覧

目標及び【代表指標】	評価		数値			目標値 (達成年度)	
	H26	H25	H26	H25	増減率		
限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換 ⇒ 平成2年度（1990年度）比25%削減	※1		(H24実績)	(H23実績)		(H32年度)	
1 市域の年間エネルギー消費量 (PJ)	B	B	19.7	20.1	-2.0%	15.9	
市域の家庭部門における年間エネルギー消費量 (市民1人当たり) (GJ)	B	A	14.2	14.3	-0.7%	8.6	
市域の業務部門における年間エネルギー消費量 (従業員1人当たり) (GJ)	A	A	49.6	54.4	-8.8%	30.2	
資源を大切に作る社会システムの形成 ⇒ 平成22年度（2010年度）比17%削減						(H32年度)	
2 市民1人当たりのごみ排出量（1日） (g)	A	A	857	880	-2.6%	786	
リサイクル率 (%)	B	A	17.6	17.7	-0.6%	24.2	
3 健康で快適なくらしを支える環境の保全 環境目標値達成率 (%)	二酸化窒素	A	B	100	50	100%	100
	一般環境騒音	B	B	82	84	-2.4%	
	河川BOD	B	A	96.0	98.0	-2.0%	
みどりを保全・創出・活用し、市民に親しまれるまちの形成	※2、※3、※4						
4 吹田市域の緑被率 (%)	-	B	26.1	26.1	0.0%	30	
木々や草花などの緑が多いのでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合 (%)	A	-	61.4	59.5	3.2%	62	
快適な都市環境の創造	※5、※6						
5 まちなみが美しいと感じる市民の割合 (%)	B	-	58.6	57.2	2.4%	70	

- ※1 エネルギー消費量の算出は統計データ集約の関係により2年遅れとなる。
- ※2 「26.1%」：平成25年（2013年）4月時点の衛星画像データから算出
- ※3 「61.4%」：平成26年度（2014年度）調査時点の数値
- ※4 「59.5%」：平成22年度（2010年度）調査時点の数値
- ※5 「58.6%」：平成26年度（2014年度）調査時点の数値
- ※6 「57.2%」：平成22年度（2010年度）調査時点の数値

●代表指標の評価の内容

- 【A】 このまま推移すると目標に到達する
- 【B】 このままでは目標に到達しないので、取組の強化が必要
- 【C】 基本方針の再検討や新たな取組が必要
- 【-】 評価が困難

●各代表指標の具体的内容

次ページ以降の「(1) 代表指標」の「進捗状況」及び「評価」をご覧ください。

●「指標」の評価

次ページ以降の「(2) 指標」において、平成26年度の実績値を過年度の実績値からの増減を踏まえ
○：改善傾向、△：変化なし、×：悪化傾向、-：その他 で評価しています。

●「重点プロジェクト」の評価

「重点プロジェクト実績一覧」において、平成26年度の実績値を平成25年度の実績値と比較し以下のとおり評価しています。
○：改善傾向（取組内容が改善・拡充されている場合） △：変化なし（取組内容が同様の内容である場合）
×：悪化傾向（取組内容が縮小等されている場合） -：その他（前の3つに当てはまらない場合）

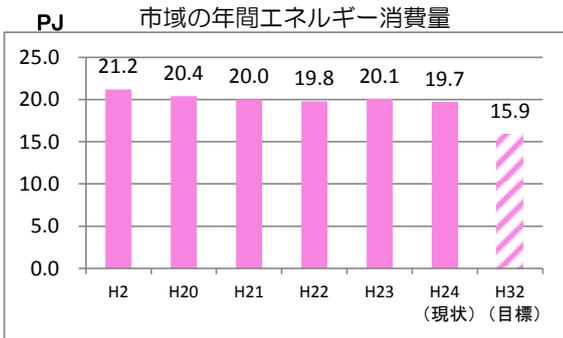
II 目標ごとの進捗状況と評価

1 限りあるエネルギーを大切に使う低炭素社会への転換

(1) 代表指標

進捗状況（市域の年間エネルギー消費量：全体、家庭、業務）

評価



全体B 家庭B 業務A

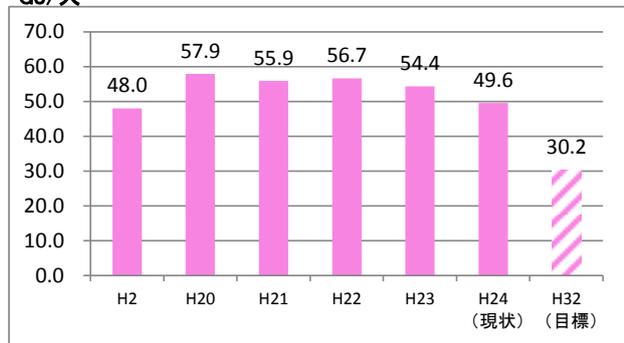
見解

平成23年度（2011年度）からの原発事故の影響による電力需給のひっ迫に伴い、家庭部門及び業務部門におけるエネルギー消費量は、現状維持又は減少となっている。しかし、建設業におけるエネルギー消費量の増加等により、産業部門においてエネルギー消費量が増加したため、市域全体としては微減となっている。引き続き、家庭や事業所における節エネルギー等の取組を促す必要がある。

家庭部門の年間エネルギー消費量（市民1人当たり）



業務部門の年間エネルギー消費量（従業員1人当たり）



(2) 指標

進捗状況

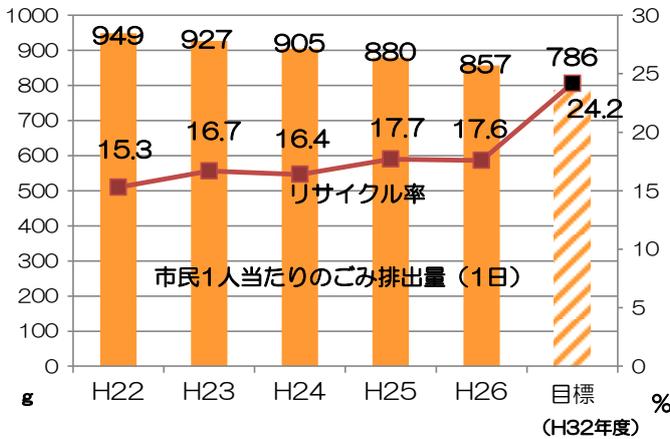
指標	評価	H24年度	H25年度	H26年度	目標値	見解
市域の年間温室効果ガス排出量 (千t-CO ₂)	×	(H22年度) 1,499	(H23年度) 1,796	(H24年度) 1,897	1,315	市域の年間エネルギー消費量は微減となっているものの、電気の排出係数の増加により、排出量が増加している。
公共施設における再生可能エネルギー導入件数(累計) 上段：件数 下段：施設数	○	52**	59	63	↑	平成26年8月9日開催の本市環境施策調整推進会議において、施設や設備の新設及び大規模改修時には、特段の事情がない限り、再生可能エネルギーを導入すること並びに既存の施設においても、可能な限り、積極的に再生可能エネルギーの導入を図ることを決定した。このことを踏まえ、今後も積極的な再生可能エネルギーの導入を促進する。
吹田市役所の事務事業に伴う温室効果ガス排出量 (千t-CO ₂)	△	79	75	75	59	節電及び節エネルギーに取り組んだが、電気の排出係数の増加に相殺され、排出量は横ばいとなった。目標達成のためには、LED照明やペアガラスの導入など、庁舎のグリーン化に取り組む必要がある。
市域における太陽光発電システム導入件数累計及び年間受給電力量 (売電機器のみ) 上段：件数 下段：電力量(千kWh)	○	1,500 3,383	2,000 6,246	2,400 9,056	3,000 6,000	固定価格買取制度の開始（平成24年（2012年）7月）により、年々、太陽光発電システムの導入が進んでいる。また、1件あたりの発電量が多い事業用太陽光発電システムの導入が増加しており、件数の増加以上に発電量が増加している。

※ 平成25年度以降の実績調査においては、これまでカウントしてこなかった公園灯等を追加したため、平成24年度以前に公表した数値の変更を行っています。

2 資源を大切に作る社会システムの形成

(1) 代表指標

進捗状況（市民1人当たりのごみの排出量（1日）、リサイクル率） 評価



B

見解

ごみ減量・再資源化を推進する様々な取組の結果、ごみの年間排出量は、年々減少傾向にある。しかし、リサイクル率は横ばいとなっていることから、地域レベルでの資源化活動への支援や事業所への指導、啓発などに取り組みすることで、リサイクル率の向上を図る必要がある。
また、平成24年（2012年）3月に改訂を行った「吹田市一般廃棄物処理基本計画」に基づき、更なるごみ減量に取り組む必要がある。

(2) 指標

進捗状況

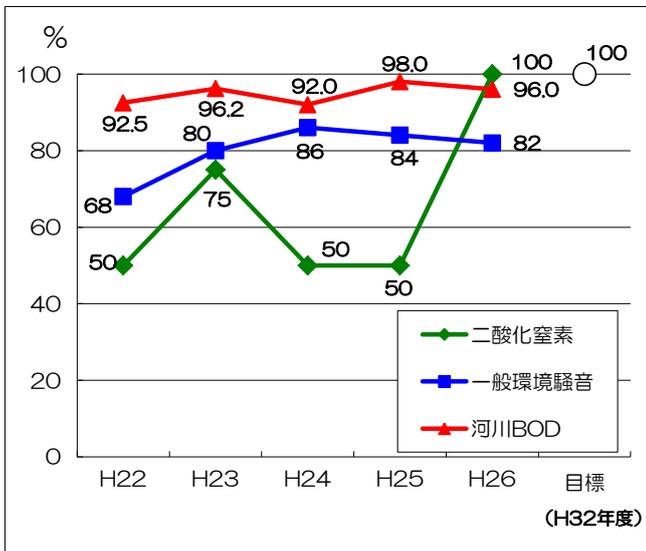
指標	評価	H24年度	H25年度	H26年度	目標値	見解
ごみの年間焼却処理量 (トン)	○	101,692	99,963	97,893	79,352	家庭や事業所におけるごみ減量の取組が進んでおり、年々減少しているが、目標値の達成に向けて取り組みを進める必要がある。
ごみの年間排出量 (家庭系ごみ) (トン)	○	80,325	79,389	78,058	74,106	ごみ減量・再資源化に係る様々な取組の結果、家庭系ごみ・事業系ごみの年間排出量は、年々減少傾向にある。
ごみの年間排出量 (事業系ごみ) (トン)	○	37,353	36,137	35,088	26,464	
マイバック持参率 (%)	△	33.4	44.1	43.8	60	レジ袋の有料化や辞退者への現金値引きなど、取組の推進により、一定の持参率を維持しているが、目標値の達成に向けた持参率向上のための取り組みが必要である。

3 健康で快適なくらしを支える環境の保全

(1) 代表指標

進捗状況（環境目標値達成率）

《環境目標値達成地点数／総地点数》



評価

二酸化窒素：A 一般環境騒音：B 河川BOD：B

見解

二酸化窒素の大気中の濃度は減少傾向にあり、平成26年度（2014年度）は、評価対象の大気常時監視測定局4局全てで目標値を達成した。

一般環境騒音の環境目標値達成率は、長期的には改善傾向にある。近年では、低公害（低騒音）車の普及が進んでいるが、引き続き道路管理者に低騒音舗装等の要望を行い、環境の保全に努めていく。

河川のBODの目標達成率は、近年90%以上で推移しており、改善傾向にあるが、今後も調査を継続する。

(2) 指標

進捗状況

指標	評価	H24年度	H25年度	H26年度	目標値	見解
下水道の高度処理普及率 (%)	○	45.6	60.8	61.0	65	平成25年度（2013年度）に、吹田市公共下水道旧正雀処理区を高度処理率100%の安威川流域下水道中央処理区へ編入したため、高度処理普及率が急増し、平成26年度（2014年度）は、高度処理水量の増加はなかったが、全処理量に対する高度処理水量の割合の増加により、普及率が増加している。
環境美化推進重点地区	○	3	4	5	15	江坂駅周辺、JR吹田駅周辺、阪急北千里駅及び阪急関大前駅周辺に加え、平成27年（2015年）2月阪急南千里駅周辺を地区指定した。なお、条例を改正し、同月より、市内全域の道路公園等での歩きタバコを禁止した。今後も市民、事業者等と連携して施策を進める必要がある。
熱帯夜日数（5年移動平均値）	×	36	38	40	35	平成21年度（2009年度）比で平成26年度（2014年度）の熱帯夜日数が7日間増加したため、移動平均値が上昇した。当該指標は、ある程度の長期間をもって評価する必要がある。
雨水浸透箇所数累計（箇所）	○	233	236	240	373	浸透箇所は増えているが、目標値の達成には、今後も取組を進め、増やしていく必要がある。
透水性舗装面積累計（㎡）	○	47,764	51,909	54,658	59,500	歩道等における導入により累計が増加している。今後も引き続き取り組んでいく。

4 みどりを保全・創出・活用し、市民に親しまれるまちの形成

(1) 代表指標

進捗状況（吹田市域の緑被率、木々や草花などの緑が多いのでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合）

評価

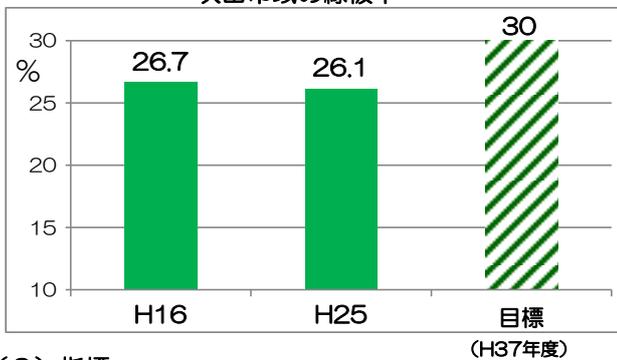
A

見解

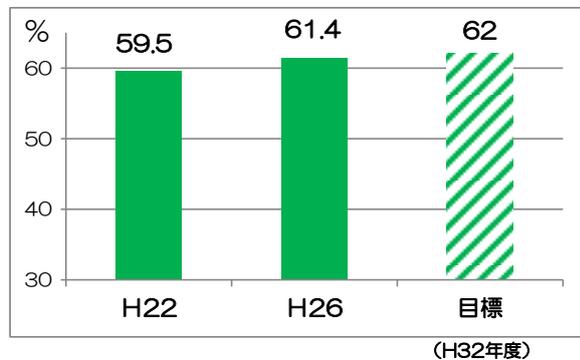
平成26年度（2014年度）に木々や草花などの緑が多いのでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合の調査を実施した。前回調査時の平成22年度（2010年度）に比較して値が大幅に増加し、目標値の62%の達成に近づいている。今後も第2次みどりの基本計画に基づき、質及び量の双方を重視した緑化を推進する必要がある。

また、市民意識調査の結果を注視しつつ、それとリンクした施策や取組を進める必要がある。

吹田市域の緑被率



木々や草花などの緑が多いのでまちに愛着や誇りを感じる市民の割合



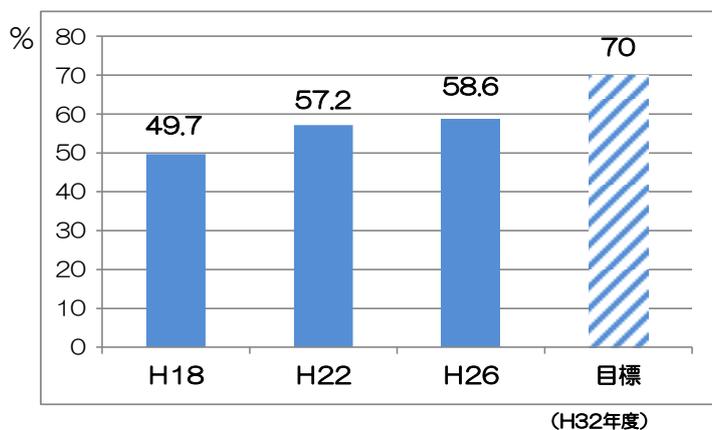
(2) 指標 進捗状況

指標	評価	H24年度	H25年度	H26年度	目標値	見解
市域面積に対する緑地面積の割合 (%)	—	15.6 (H21年度)	15.6 (H21年度)	15.6 (H21年度)	20	平成27年度（2015年度）に実施する第2次みどりの基本計画の進行管理により状況を把握予定。
市民1人当たりに対する都市公園面積 (㎡/人)	△	8.9	8.9	8.8	10	都市公園面積の増減はないが、人口が増加したため、市民1人当たりに対する面積が減少した。
緑あふれる未来サポーター制度（公園）の登録団体数	△	67	71	71	75	新規団体の登録があったが、高齢化に伴う退会もあったため、増減はなかった。目標値の達成に向け、今後も引き続き、取組を進めていく。
公園・緑地の利用しやすさ満足度（点）	○	60.0 (H22年度)	60.0 (H22年度)	62.4 (H26年度)	↗	平成26年度（2014年度）に実施した市民意識調査において、満足度が上昇していた。
緑化路線延長累計 (m)	○	75,061	75,316	76,406	76,000	毎年、導入を進めており、累計が増加し、平成26年度（2014年度）で目標値を達成した。今後も引き続き取組を進めていく。

5 快適な都市環境の創造

(1) 代表指標

進捗状況（まちなみが美しいと感じる市民の割合）



評価

B

見解

平成26年度（2014年度）の調査では、平成18年度（2006年度）調査の49.7%、平成22年度（2010年度）調査の57.2%からその割合が増加している。しかし、増加率が低くなっていることから、目標の達成のためには、今後も引き続き、市民・事業者等への啓発や取組の支援を進めるとともに、開発事業に対する誘導に取り組んでいく必要がある。

(2) 指標

進捗状況

指標	評価	H24年度	H25年度	H26年度	目標値	見解
住み続けたいと思う市民の割合 (%)	○	66.2 (H22年度)	66.2 (H22年度)	69.1 (H26年度)	80	平成18年度（2006年度）調査の64.3%、平成22年度（2010年度）調査の66.2%から、平成26年度（2014年度）調査ではその割合が増加している。
鉄道・バスなどの公共交通網の便利さ満足度 (点)	△	65.4 (H22年度)	65.4 (H22年度)	65.1 (H26年度)	↗	平成22年度（2010年度）の調査と同程度の高い満足度を維持している。今後も満足度の向上に向けた取り組みを進めていく。
コミュニティバス1便当たりの乗車人数 (人)	○	14.6	16.7	17.5	↗	便あたりの乗車人数が0.8人増加した。今後も利用者増に向けた取り組みを進めていく。
移動経路のバリアフリー化率 (%)	○	37.1	37.1	43.7	100	進捗率が前年度から6.6%増加した。目標値の達成に向けて、取り組みを進める必要がある。